

ETロボコン： 異色の情報系ロボコン

— 光る若手にインタビュー —

編集にあたって

平山貴司 | 岩手大学

ETロボコンは、巷でイメージされるロボコンとは一線を画す、情報系のロボコンです。ロボコンなのにロボット本体の工夫や改造が禁じられています。では何を競うのかというと、ロボットを自動制御するソフトウェアです。業界用語で言うところの組込みソフトウェアの技術を競います。

2019年は、全国の企業や大学など259チームがETロボコンにエントリーしました。9月に地区大会が行われ、各地区から選ばれた代表チームによるチャンピオンシップ大会が、11月20～21日にパシフィコ横浜で開催されました。本会もETロボコンに協賛しており、毎年本会から優秀な学生等のチームに若手奨励賞を贈っています。本会とかかわりの深いコンテストですので、ミニ特集として取り上げることにしました。本ミニ特集では、ETロボコンの概要と学生主体の2チームへのインタビューからなる、3本の記事をお届けします。

ETロボコンは、ソフトウェア重視の異色の情報系ロボコンということもあり、インタビューに入る前に、読者の皆さんにETロボコンの事前の説明が必要です。そこで「ソフトウェア教育・実践の場としてのETロボコン—時代に合わせたモデリング課題の提供—」では、ETロボコン本部審査委員長に、ETロボコンの特徴・狙い・ルールなどを中心に概説していただきます。ETロボコンでは、組込みソフトウェア技術教育をテーマに挙げており、モデル審査が行われます。参加チームは、競技に先立ってソフトウェアの設計図であるモデル図を実行委員会に提出し、審査を受けます。競技に勝つだけでなく、ソフトウェアの品質を担保することも求められます。これがETロボコンの最大の特徴です。総合成績は、競技とモデル審査の総合評価で決まります。

ETロボコン2019では部門やクラスが分かれており、本ミニ特集では、上級者向けのデベロッ



パー部門アドバンスクラスに出場したチームに注目します。その中から光る若手を取り上げたいと思い、優秀な成績により表彰を受けた学生主体の2チームに、ETロボコンへの取り組みについて尋ねます。出場することになったきっかけ、ロボットの制御、スピード競技、ボーナス課題のブロックビンゴ、モデル図、ETロボコンを通じたスキル向上などについて、Q&A形式でチームの学生の代表4名に答えていただきます。

「KAMOGAWAの訓練生にインタビュー」の「KAMOGAWA」は、競技3位・若手奨励賞に輝いたチームです。競技において、課題を見事パーフェクトクリアし、会場を大いに湧かせました。この点が評価されて、若手奨励賞が贈られました。インタビューでは、専門校で1年間毎日のように取り組んだ様子が語られています。次の若い世代へのメッセージも送っています。

「がんちゃん+Xの学生にインタビュー」の「がんちゃん+X」は、TOPPERS賞を受賞したチームです。総合成績でも4位と健闘しました。モデル図において信頼性や保守性の高い実装設計がなされている点を評価されて、TOPPERS賞が贈られました。2月から11月まで学業の合間を縫って取り組んだ努力が語られています。辛かったことや楽しかったことの話も織り交ぜられています。

ETロボコンには名だたる企業のチームも多数出場しています。その中で、学生チームが表彰台に上がったことは快挙です。学生の活躍を紹介することで、本会の学生会員やジュニア会員など若手の読者層を元気づけられればと思います。

(2019年11月18日)